

## ☆本気で、全力で



この苦しそうな表情で走っている選手は、埼玉県庁に勤務しながらマラソンランナーとして活躍している川内優輝さんです。どの大会でも必死な表情で走り、ゴールした瞬間に倒れこんでしまう、その全力を出し切って戦う姿に、私は感動させられます。

私は、いつも川内さんの必死な表情を見て、カッコいいなと思っています。

先日、川内さんは50kmマラソンに出場し、見事優勝を飾りましたが、今年で7回目になるその大会で、初めてまともにインタビューに答えられたと言っていました。つまり、今までの6回は、途中で棄権したり、ゴールに倒れこんで救急車に運ばれたりして、インタビューを受けることができなかったのです。こんなにすごい選手が、自分の力をとことん出し切って、動けなくなるまで走りきるのです。

**「本気を出すっていうことは時にはかっこ悪く見えることがあるんだよ」**

昨年の栗原先生の言葉を思い出します。

どんなことでも本気でやってほしい。靴下の長さをギリギリ短くすることに真剣になってほしくない。髪型を気にするくらいなら、行進の手足の先までビシッと伸びているか、気にしてほしい。表彰の時の返事に本気をぶつけてほしい。

ムキになりましょう。熱くなりましょう。何がカッコ悪くて、何が格好いいのか、本当の「かっこよさ」を見極めましょう。

私は、手足のビシッと伸びた行進の姿を格好いいと思います。大きな声であいさつや返事ができるのが格好いいと思います。黙って、黙々と掃除をする姿を格好いいと思います。

口からよだれ垂らしたって、鼻水流したって、本気で必死で打ち込む姿は、人を感動させるんですよ。

毎日、本気で部活に取り組んで、全力で戦って、全力で演技して、全力で演奏して、何か分かんないけど、終わったら涙が止まらない。そんな打ち込み方ができたら、カッコいいな。

## ☆南中生の活躍

### 【第63回全日本中学校通信陸上競技群馬県大会】

男子3年100m 渡邊 一樹 1位 11" 20 (全国標準記録突破)

※渡邊君は、8月7日～8日に行われる「第45回関東中学校陸上競技選手権大会」及び、8月19日～22日に行われる「第44回全日本中学校陸上競技選手権大会」に出場することが決まりました。

男子共通200m 渡邊 一樹 3位 23" 34

男子共通800m 大塚 凜 7位 2' 06" 26

男子共通110mH 栗本 尚弥 8位 16" 52

### 【群馬県中学校春季選抜水泳競技大会】

男子50m自由形 川端 志門 第2位 26" 20

男子100m平泳ぎ 齋藤 翼 第8位 1' 13" 52

女子800m自由形 根岸 晏子 第8位 10' 40" 17



## ☆本気を出し切った、その先に…

私は以前、サッカー部の顧問をしていました。全くの素人（しろうと）で、サッカーなど中学校の授業でしかやったことのない私が、伊勢崎二中に来て、初めてサッカー部の顧問をやることになり、本当に困りました。今、本校に勤めている竹内先生や増淵先生、玉村小に異動された長沼先生にも、その当時は練習試合等で大変お世話になりました。



初めのうちは技術的なことは何も教えられません。「気合いを入れよう！」「気持ちで負けるな！」「声を出そう！」「最後まで走りきろう！」ただひたすら、そんなことを言っていたのを思い出します。

初めて指導した3年生のチームは元気が良くてパワフルでした。しかし、次の2年生の代は、みな真面目でしたが、おとなしいチームでした。伊勢崎市の中でも弱い方でした。練習試合でも、新人大会でも結果が思わしくなかったため、思い切ってポジションを大きく変えてみました。

当時はディフェンスが弱く、失点が多かったことと、ディフェンスからの指示の声が出ず大人しかったため、フォワード（主にシュートをする攻撃的な選手）にいたキャプテンを説得して、センターバック（ディフェンスの中央で守りの要となる選手）にコンバートしました。彼は身長が160cmそこそこで、当時は小柄な選手をセンターバックにするチームはありませんでしたが、大きな声を出して周りの選手にしっかりと指示を出し、厳しいことが言える選手であったこと、そして、誰よりも一生懸命に練習をする選手であり、彼の言うことはみんながしっかりと聞いていたため、思い切って変えてみました。

県協会長杯という大会のリーグ戦のことです。同じリーグには、練習試合でいつも、5-0とか6-0といった大差で負けていた伊勢崎三中がいました。三中はリーグをトップで通過することが決定して、対する本校（二中）はリーグ敗退が決まっていた。力の差は明らかでしたが、キャプテンがセンターバックになってから、チームは良い状態になりつつありました。



三中との試合は圧倒的に攻め込まれ、ほとんど相手側のコートに攻められない状況でした。シュートを何本打たれたか分かりませんでしたが、その都度、キャプテンが必死に対応し、声を出し、体を張ってシュートを防いでいました。

結果は引き分けでした。相手チームへのあいさつと中央でのあいさつを終え、戻ってきた時、キャプテンは号泣していました。チームメイトも彼がなぜ泣いているのか分からない様子でした。なぜなら、予選リーグ敗退は決まっていた、この試合は勝負がかかった試合ではなかったからです。片付けが終わり、落ち着いたところで、その理由を彼に聞いてみました。

彼はこう言いました。「何でだか、よく分からないです…」「なぜか涙が出てきました」



全力を出し切って、気が抜けたのかもかもしれません、勝てなかった悔しさがあつたのかもかもしれません、いずれにしても、必死で60分間を戦い、持っている力の全てを出し切ったのかな、と私は思いました。本気で、必死で、無我夢中で戦うと、人はこうなるんだな、と改めて感動したのを覚えています。

今でも、たまに彼に会うことがあります。一緒にお酒を飲むと、必ずその話になります。そんな一生懸命なキャプテンだった彼も、今は良いお父さんです。

人生の中で、こういう経験ができた彼の心の素晴らしさを、今でも思い出します。